

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北海道)	-	-	-	-
		一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・11月の売上は前年比で107.4%、前々年比で108.4%となった。日本人客が高価なコンプを買ったり、3万円もする貝柱を買うなど、これまであまり例のない動きがみられた。26年間も商売をしてきたが、本当に珍しいことであり、アベノミクスの効果だとみられる。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・前月と同様に、特選部門、宝飾品を中心に高額商材がよく動いている。来客数は微減ながらも、商品単価や客単価の上昇によって売上が伸びている。ただ、気温の低下が遅かったことから、防寒雑貨の動きが悪い。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・例年よりも早い降雪の影響で、11月半ばまでは来客数が前年を下回り、売上も前年割れとなっていたが、中盤以降は持ち直している。来客数は徐々に増え、前年比プラスに転じており、それに伴って売上も前年を上回るようになってきている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・中旬以降、降雪の影響で靴や衣料を中心に価格の高い商材の動きが良くなっている。また、販売量も前年を上回ってきている。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・前月と比べて客の購入点数が増えている。特にワイシャツなどの小物類は複数購入も多く、よく売れている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・11月後半になり、来客数、売上共、やや上向きになってきている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・前年と比べて販売量が増えており、価格帯も上がってきている。今後にも期待できる。
		自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・ドライブレコーダーの売上が2か月連続で前年の2倍を超えるなど、市場の関心の高まりとともに販売量が伸びている。
		一般レストラン（スタッフ）	単価の動き	・外国人観光客の利用が伸びていることもあり、来客数が前年比103%、客単価が前年比106%と好調に推移している。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・上期は販売額が前年を下回る月が多かったが、10～11月は前年を上回っている。前年の下期の動向が悪かったことの反動もあるが、市場に動きがみられるようになってきている。
		旅行代理店（従業員）	競争相手の様子	・自社のみならず、同業他社も営業数値が前年よりも良くなっているようであり、やや回復傾向にあることがうかがえる。
		通信会社（社員）	来客数の動き	・定例の新商材が発売されたことで来客数が増えているものの、販売量が劇的に変化しているわけではないため、景気はやや良くなった程度である。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子をみると、価格面も含めて買物に対して慎重になっている状況が続いている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・北朝鮮問題の影響を懸念していたが、時間がたつにつれて影響もみられなくなってきている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・総選挙後にそれまでの冷え込んだ消費の反動が出てくることを期待していたが、ほとんどみられなかった。大手百貨店などは外国人観光客による売上が好調なことで前年を上回っているようであるが、地元客による消費は決して良くない状況にある。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・当エリアの経済動向は駅前の複合商業施設の動向次第の面があり、景気はあまり変わっていない。
	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・11月後半になり、回復基調がみられるようになったものの、月全体としては今一つである。このところ、景気はあまり変わっておらず、3か月前と比べて良いとはいえない。	
	百貨店（担当者）	販売量の動き	・例年と比べて降雪が遅く、冬物消費の本格化が出遅れたことが影響している。	
	スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数は上向いてきているものの、客単価が伸びていない。	
	スーパー（店長）	来客数の動き	・隣町に延びる高速道路が整備されたことで、当店が面している国道の通行量がこれまでよりも減っており、客の流れが悪くなってきている。	

スーパー（役員）	来客数の動き	・前月と同様に、来客数の増加と客単価の低下が続いている。商品単価も前年から2%ほど低下している。小売業間の競争によりデフレが進行していることで、他店との買い回りが増え、そのことが来客数の増加につながっているように見え、景気としてはあまり良い状況ではない。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数は増加傾向にあるが、前年比はマイナスとなっている。たばこの売上が下げ止まっているが、電子たばこが一時的に売れているためであり、従来のたばこや酒の売上は値上げの影響もあり、減少が続いている。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・10月と同様に、11月も漁業を中心に不漁による影響が続いており、悪い状況は変わらない。
コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数が回復してこない。11月はそれほど天候が崩れなかったにもかかわらず、前年を下回っている。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・来客数が前年を下回っている。
乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・前月と比べて来場者数に大きな増減もみられず、前年と同じような動きとなっていることから、景気は変わらない。
その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	それ以外	・景気の悪い状況が続いているが、悪天候が要因とみることとはできない。悪天候は前年にもあったことであり、むしろ中高年の購買力が確実に落ちてきていることが要因である。
その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・原油価格の上昇に伴い、石油製品価格も高騰しているが、現在のところ、販売量に変化はみられない。
タクシー運転手	来客数の動き	・観光客のオーダーが減っている一方で、イベント関係のオーダーが増えており、全体としては変化がみられなかった。
タクシー運転手	販売量の動き	・諸般のコストが増大しているため、運賃の値上げを実施したいが、当地は公定幅運賃制度の対象地域であるため、思うように値上げをできない状況にある。運賃水準は平成9年から変わっておらず、法制度による救済処置などが求められる。また、運転手不足も深刻な状態であり、これらのことが解決しない限り、景気が上向くことは期待できない。
美容室（経営者）	販売量の動き	・ここ3か月、売上は前年並みの水準で推移している。
住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・株価が堅調に推移していることで消費はやや上向き傾向にあるとみられるが、住宅などの投資については、低金利であるにもかかわらずやや頭打ちの状況となってきている。
商店街（代表者）	来客数の動き	・当商店街において、例年11月は客の買い控えや出控えがみられるが、今年は例年以上に入店が少ない。物販店では平日昼間の客の来店が皆無という店もあるなど、ほぼ全ての物販店で売上を落とすとみられる。降雪の影響で歩行環境が良くないこと、年金月でないことが主な要因とみられる。
百貨店（役員）	来客数の動き	・来客数の減少とともに客単価の低下が目立つ。
百貨店（営業販売担当）	販売量の動き	・来客数、客単価は前年を上回って推移しているが、服飾雑貨、婦人服、紳士服などの買上客数、買上数量が前年を下回っている。
スーパー（企画担当）	来客数の動き	・ここ3か月、売上の前年割れが続いている。客単価がほぼ前年並みで推移している一方で、買上客数が前年を下回って推移しており、客の買物頻度が低下している状況がつかえる。
スーパー（役員）	お客様の様子	・野菜や魚の価格が一気に上がってきている。また、客が商材を余計に買わなくなってきている。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・客単価は上昇しているが、来客数の減少が続いている。
乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・地域の基幹産業である漁業の漁獲量が減少しており、関連する加工業者や運輸包装資材業者などにも大きな影響が生じている。また、台風の影響もあり、当地全般的に景気が悪くなっている。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・年末に向けて販売量が間違いなく減ってきている。

乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・例年、11月は雪の降り始める時期であり、徐々に寒さが厳しくなること、年末に向けてお金の掛かる時期を控えていることなどから、売上の落ち込む時期であり、今年もそうした傾向は変わらない。当店に限れば、今年は新型車が出たことで例年ほどの落ち込みはみられなかったが、周りの様子を見ると厳しく、苦戦していたようである。
高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・観光客が少なくなり、その分、地元の常連客が多くなってきている。ランチは12時過ぎには満席となるが、午後2時頃には落ち着くことが増えている。一方、ディナーは7割程度の入込となっている。11月後半に季節外れの大雪があったことで客足が鈍くなり、全体の来客数は前年を2%下回った。
高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・11月は祝日が2回あり、祝日前日の売上が良かった反面、ほかの日の客足が伸びなかったことから、景気はやや悪かった。例年よりも初冬の冷え込みが早まったためか、温かいメニューがよく売れた。一方、恒例の企画であった秋サケのフェアについては、秋サケの不漁による価格上昇の影響などから、今年は開催することができなかった。前年、台風の影響で価格が高騰した秋冬の根菜類は、今年は安定した価格で順調に購入できているが、秋に入ってから葉物類が高騰してきているため、特にサラダの原価が上がってきている。
観光型ホテル (スタッフ)	単価の動き	・オフシーズンということもあり、例年と同様に客室単価が低下傾向にあるが、今年は戦略的に例年よりも単価を下げており、薄利多売が顕著となっている。
観光型ホテル (役員)	単価の動き	・個人客のWeb予約において単価の低い宿泊プランでの予約件数が多くなってきている。また、外国人観光客の団体旅行の価格交渉において値下げ要望が強まってきている。
旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・ビジネス需要は夏場以降、前年を上回る伸びを維持しているが、外国人観光客は流水観光の時期まであまり動きがみられないため、全体的には閑散期といえる。
タクシー運転手	来客数の動き	・タクシーの売上は天候に大きく左右される。前年は11月上旬に大雪があったため、多くのタクシー利用があったが、今年は大雪の日がなかったため、今一つである。中旬以降、降雪が続いたことでタクシー1台当たりの売上は前年並みまで回復したが、乗務員不足でタクシーの稼働率が悪く、会社の売上は前年を3%下回った。
タクシー運転手	販売量の動き	・人口減少に加えて、不景気の影響により、同業他社も含めた市内全体の売上が減ってきている。
タクシー運転手	お客様の様子	・前年は北海道新幹線の効果もあり、前々年から売上が微増したが、今年は期待が持てない。4~11月までの売上は前々年よりも落ち込んでおり、来年3月まではこの状況のままで推移するとみられる。
通信会社(企画担当)	競争相手の様子	・客の動きをみると、競争相手への流出が想定以上となっている。対策を打ったことで他社からの流入は増えているものの、流出が止まらない状況にある。特に道央圏でこうした動きが顕著である。
観光名所(従業員)	来客数の動き	・来客数について前年から1割程度の減少が見込まれる。これは降雪を伴った本格的な冬の訪れが例年よりも早まったことが大きく影響している。
パチンコ店(役員)	単価の動き	・この時期の原油の値上がりは、一般消費者のみならず、加工業者や運送業者にも大きなダメージを与えることになる。
美容室(経営者)	お客様の様子	・灯油やガソリン、食品関連などの値上がりの影響が大きい。消費者の守りの意識が強まっており、支出を控える傾向がみられる。
美容室(経営者)	それ以外	・消費税の増税が話題に上がるようになってきている現状から、どうしても景気が良くなるとは思えない。
その他サービスの動向を把握できる者[フェリー](従業員)	来客数の動き	・観光シーズンが終わったことに加えて、天候の悪化による欠航も増えていることから、全体的に輸送量が落ち込んでいる。
住宅販売会社(経営者)	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームに訪れる客について、契約に至るまでに掛かる時間がやや長くなってきている。

	x	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・たばこなどの嗜好品の売上が大きく減っている。また、クリスマスケーキなどの年末年始の予約商品において、単価の高い商材の動きが悪い。
	x	コンビニ（オーナー）	来客数の動き	・競合店のドミナント出店が過剰に行われているため、景気は悪くなっている。
	x	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・以前は中国語などの外国語が聞こえることがしばしばあったが、最近ではめっきり減少している。
	x	タクシー運転手	販売量の動き	・売上が前年を若干上回ったものの、前年は台風被害の影響で売上が落ち込んでいた時期であるため、景気が回復しているとはいえない。
企業 動向 関連 (北海道)		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前の8月の販売量は前年比マイナス6%であったが、11月は前年比プラス6%であることから、景気は良くなっている。
		建設業（従業員）	競争相手の様子	・道東地方においてT P P 関連の補助事業が活況を呈している。ただ、新規案件の受注については、職員や労務者確保の面から困難であり、断り続けている。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が増加傾向にある。単価も安定しており、大型案件も少なくないことから、景況感としては以前よりも勢いがある。
		コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・客先の発注量が増大していること、今後の注文についても好調であることから、景気はやや良くなっている。
		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べて特に売上に変化がみられない。
		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・北海道産広葉樹を活用した家具が評価されている。特に大手ハウスメーカーの反応が良く、アジア地域への輸出量も増加してきている。
		建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・好調な受注に伴い、夏場以降、完成工事高が順調に積み上がっている状況に変わりはない。
		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・国内貨物、国外貨物共、トラック関連は全体的に忙しくなっているが、割高な下請業者への発注や高速道路の利用など、荷主に転嫁できない部分でのやりくりが増えてきていることで原価が上昇しており、利益が増加する状況にまでは至っていない。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・住宅投資は減速しているものの、外国人観光客の増勢が続くとともに、個人消費も底堅く推移しており、道内景気は3か月前と変わらず横ばいでの推移となっている。
		司法書士	取引先の様子	・当地区の中古住宅関連の不動産取引については以前と変わらないが、新築建物の建築については若干の伸びがみられる。ただし、これから取引の停滞する冬期間に入るため、今後の動向が気かりである。
		司法書士	取引先の様子	・本格的な冬を迎える前に冬期間の仕事を確保するため、不動産取引にも若干の増加がみられるが、景気回復というには程遠い。
		その他サービス業 [建設機械レンタル] (総務担当)	受注量や販売量の動き	・受注量は引き続き前期を上回って推移しているが、伸び率が鈍化してきている。
		輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・夏が過ぎ、一気に気温も下がったことで飲料関連の動きが急激に落ちてきた。農産物については、豊作にもかかわらず動きが今一つ鈍く、期待していたほどの動きとなっていない。
		その他非製造業 [鋼材卸売] (従業員)	受注量や販売量の動き	・メーカー発表では下期の大型機械案件などは大幅増のようだが、補助金などの政策が一段落していることに加えて、納期などの問題から、景気が上向くまで半年以上は掛かる。
	x	-	-	-
雇用 関連 (北海道)		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人依頼が増えている。営業系の求人に加えて、事務系の求人、派遣依頼が増加傾向にある。業績拡大に伴い事務処理量が増加していることで人材の調達傾向が強まっている状況がうかがえる。また、業容拡大に向けて、人事体制、人事制度の変更を目指す企業から人事系の求人依頼も目立つ。
		新聞社 [求人広告] (担当者)	周辺企業の様子	・スーパー並びに大型店など、流通系の企業に活発な動きがみられる。
		学校 [大学] (就職担当)	求人数の動き	・各業界の採用担当者との会話から、住宅業界、ホテルなどの観光業界が好調であり、それに伴い新卒採用の動きが活発になっている。

	求人情報誌製作会社（編集者）	採用者数の動き	・人材不足の声は多いが、広告媒体やSNSを含む口コミなどで手を尽くしても、求人への反応があまり良くなく、採用まで至らないケースが増えている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・運輸業や介護関連、生活関連サービス業が堅調に推移しているが、全業種で見ると求人件数は増えていない。年内の求人控えの動きも出ている。中小企業の新卒採用についてはまだまだ続きそうである。
	求人情報誌製作会社（編集者）	それ以外	・企業の採用意欲は高いが、人材難、後継者不足などの問題がここにきて顕著に表れてきている。機械化を進めたい企業も多いが、思うように進んでいないようである。売上増のために人材を増やしたいと考えても、人材がいない負のスパイラルとなっている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求職者数が5年11か月連続で前年を下回り、月間有効求人数が9か月連続で前年を上回ったことから、有効求人倍率は1.10倍と前年を7年8か月連続で上回った。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・ここ4か月、新規求人数が前年を上回って推移している。とりわけ、建設業、運輸業、介護、小売業などにおいて、人材確保の動きが活発化している。また、若手職員の採用など、人材育成を目的とした求人募集もみられる。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は増加しているものの、人手不足といわれている業種が多く、景気が上向いているとは考えにくい面がある。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・10月の有効求人倍率は1.07倍と高い水準で推移している。業種によっては人手不足の状況が深刻化している。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・アルバイト、パートの求人件数が過去2年の実績を下回って推移している。
	x	-	-